

心理言語学、認知科学

准教授 水本 豪
Go Mizumoto

現在の研究テーマと内容

現在、次のような研究に従事しています。

- 研究1. 幼児の言語理解に及ぼす言語性短期記憶（言語性ワーキングメモリ）の個体差・発達差
- 研究2. 脳損傷者の言語運用にみられる言語特性・文字特性の影響
- 研究3. 脳損傷者の言語・認知機能評価に向けた実験心理学的研究
- 研究4. 地域在住高齢者の摂食・嚥下機能に関する研究

研究1 は、大学院生の頃から継続的に行っているテーマです。研究2 と 研究3 は、主に九州内の病院の言語聴覚士の方や筑波大学、川崎医療福祉大学のみなさんと一緒に、日本学術振興会・科学研究費補助金による助成を受けて行っているプロジェクトです。最近はこちらの方がメインのテーマになりつつあります。研究4 は、本学言語聴覚学専攻・松原慶吾准教授らと共同で進めているプロジェクトです。基本的に、子どもからお年寄りまで、幅広く「ヒトを科学」しています。

これまでの研究成果と今後の展開

詳細な業績については、本学研究者紹介 (<https://www.acoffice.jp/khsuhp/Kgapp>) あるいは、Researchmap (水本豪) に掲載されている情報をご参照ください。

- 研究1：格助詞に基づく文の理解と言語性短期記憶の個体差のかかわりを実証してきました。
- 研究2：脳損傷に伴う読み書き障害例に単語レベルの特性や文字レベルの特性が影響することを既存のデータベースだけでなく、独自に作成したデータベースを用いて検討してきました。
- 研究3：反応時間計測や視線計測を中心に進めています。
- 研究4：本学研究シーズ集 (<http://kumaho-seeds.info/>) をご覧ください。

大学院を目指すみなさんへメッセージ

大学院修士課程の2年間は本当にあっという間です。この短い時間をどう過ごすかは、みなさんがどのようなプランをもって学ぶかにかかっています。現場で活躍されながら大学院を目指す方にとっては、特にこの問題は重要であると思います。いろいろな授業を受けながら、あるいは、働きながらも研究が進められるよう、しっかりとした計画を立ててください。

上記のテーマにかかわらず、一緒に研究をしたいという方は、遠慮なくご連絡ください。

E-mailアドレス [mizumoto\[at\]kumamoto-hsu.ac.jp](mailto:mizumoto[at]kumamoto-hsu.ac.jp) ([at]を@に変換すること)